

KDraster コンバート

TIFF/TIFF(G4)変換プログラム

TIF2TIF



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056

横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL : 045-442-0500 FAX : 045-442-0501
URL : <https://www.kernelcomputer.co.jp>



製品概要：

- ・ TIFF (モノクロ/カラー) データを TIFF (G4) データに変換
- ・ マルチページ/シングルページ処理
- ・ MMR 圧縮データの高速処理
- ・ コマンドラインアプリケーション

動作環境：

Windows 版： Windows 10, Windows 11, Windows Server 2016, Windows Server 2019,
Windows Server 2022, Windows Server 2025

UNIX 版： Solaris9 以降 (SPARC), HP-UX11i V2 以降, AIX6.1 以降

LINUX 版： RHEL4 以降あるいはそれに相当するカーネル 2.6 以降の x86/x64 系 Linux

製品構成：

- ・ TIF2TIF 実行モジュール

価格： 8.5 万円(税抜き)

1. 基本操作

TIF2TIF は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことができます。
ここでは、直接コマンドラインから入力して実行する場合の、基本的な操作手順を示します。
(Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行して下さい。)

- ・ TIFF データを TIFF (G4) データに変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
実行モジュール名  入力ファイル名  -0出力ファイル名  -各オプション
```

- ・ 変換実行例 :

```
> TIF2TIF in.tif -0out.tif
```

TIF2TIF : 実行モジュール名
in.tif : 入力するラスターファイル名
out.tif : 出力するラスターファイル名

-0 : 変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。
 マイナス記号とアルファベットの「オー」です。
 -0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。
 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。

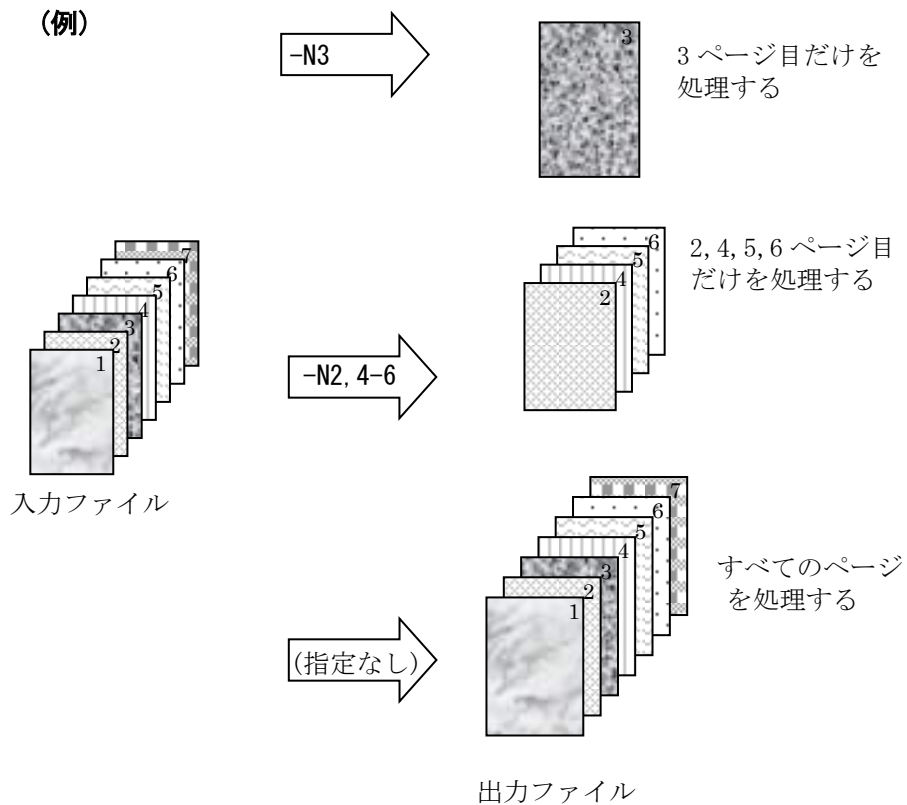
※オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。
※オプションの詳細についてはオプションの項目を参照ください。

2. オプションについて

オプションはコマンドライン上で変換時に指定します。
大文字小文字どちらでも指定できますが全角文字は使用できません。
-(ハイフン)とオプションの間に空白を入れないでください。

・マルチページ処理に関するもの

- N[page] : 入力がマルチページファイルの場合、処理するページを指定します。
次のような形式で任意のページを指定する事が出来ます。
- N0 : 全ページを処理(初期値)
 - N3 : 3 ページ目のみ処理
 - N3-5 : 3 ページから 5 ページまで処理
 - N-5 : 1 ページ目から 5 ページまで処理
 - N5- : 5 ページ目から最終ページまで処理
 - N3,5 : 3 ページと 5 ページの処理
 - Nodd : すべての奇数のページを処理
 - Neven : すべての偶数のページを処理
 - Nlast : 最後のページのみ処理

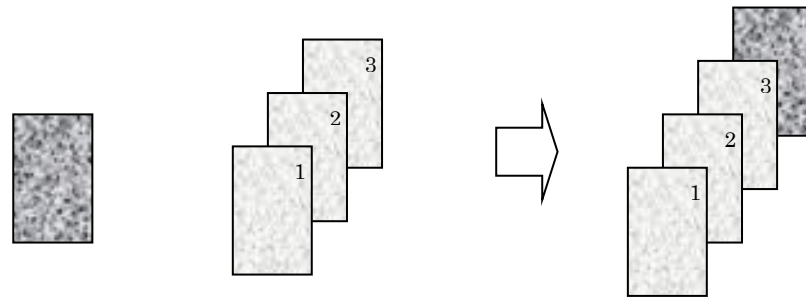


(注) ここで指定するページ番号とは、ファイル上での順番のことで、TIFFの「ページ番号」タグの内容とは無関係です。

-M

: 出力ファイルとして既存のファイルを指定すると、出力フォーマットがマルチページ可能なフォーマットであれば、出力ファイルの最後に新しいページとして入力ファイルを追加します。

(例)



入力ファイル

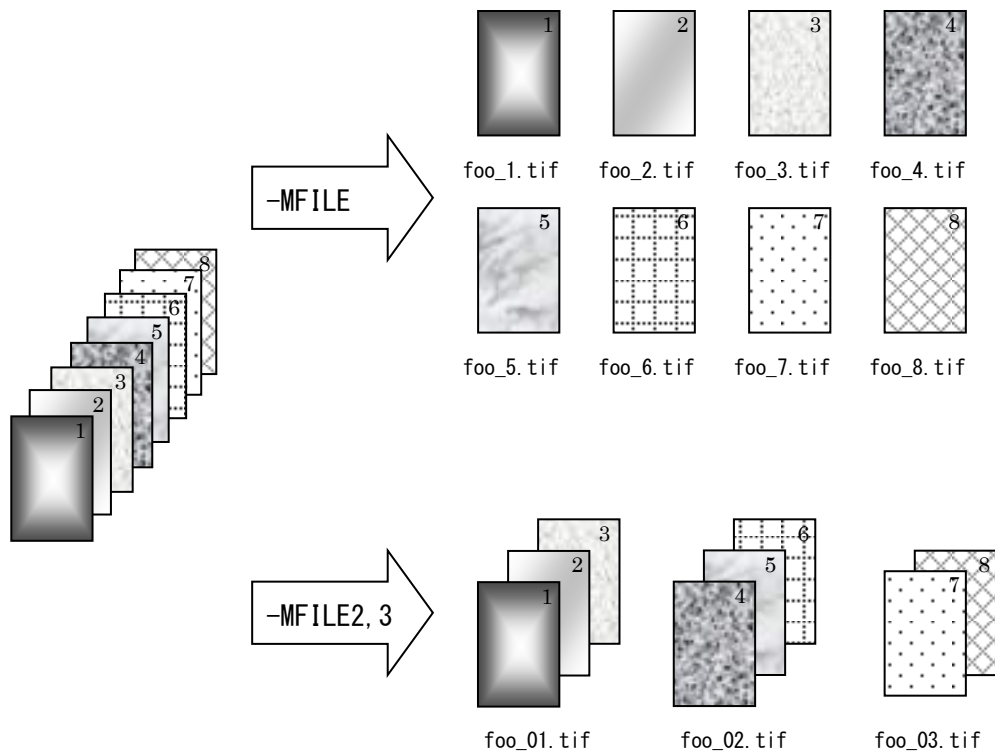
出力ファイル
(処理前)

出力ファイル
(処理後)

-MFILE[cols, pages, sep]: 入力がマルチページの場合、指定されたページ数ごとに分割して出力します。各出力ファイル名は指定した出力ファイル名に番号を付加したのになります。
cols にファイル番号の桁数を、pages には分割するページ数を、sep には区切り文字を指定して下さい。
複数のパラメータを指定する場合には区切り記号「,」が必要です。

(例)

(出力ファイル名としてfoo.tifを指定)



(入力ファイル)

(出力ファイル)

・処理の高速化に関するもの

- MMRAUTO : MMR 圧縮の 2 値イメージを変換する場合、可能ならヘッダ部分のみを変更することによって高速変換を行います。
高速変換ができない場合は通常の変換(圧縮・解凍処理)となります。

・バッチ処理に関するもの

- BATCH : バッチファイルを使って、複数ファイルを一括処理します。

<使用方法>

- ・ 処理内容を記述したバッチファイルを-BATCH オプションで指定して実行します。
(各変換処理の変換ログを残す場合は、-RIREKI オプションも指定します。)

```
TIF2TIF -BATCH バッチファイル名 [-RIREKI 履歴ファイル名]
```

<バッチファイルの作成方法>

- ・ バッチファイルはテキスト形式で、1 行につき 1 件の処理を記述することができます。
行数に制限はありません。各行には、入力ファイルやオプションパラメータなどを、
コマンドラインに記述すると同様の形式で記述します。
このとき、実行モジュール名(TIF2TIF)は記述しません。

```
入力ファイル -O 出力ファイル [オプションパラメータ]
```

- ・ 入力ファイルと出力ファイルの指定では、ワイルドカード(「*」など)を使う事が出来ます。
入力ファイル名でワイルドカードを使うと、それに該当するファイルすべてについて、
それぞれの処理が行われます。出力ファイル名にワイルドカードを使うと、
対応する入力ファイルの拡張子を変更したものが出力ファイル名となります。
(したがって出力ファイル名には、必ず拡張子を指定する必要があります。)
- ・ 下の行をバッチファイルの先頭部分に記述しておくと、エラーが発生した時点で
バッチ処理が中断されるようになります。

```
$break
```

<バッチファイルの例>

- (1) ディレクトリ DIR_A の中の拡張子 .data のファイルをすべて、ディレクトリ DIR_B の中の
拡張子 .dt のファイルに変換します。

```
DIR_A/*.data -ODIR_B/*.dt (UNIX 系)
```

あるいは

```
DIR_A\*.data -ODIR_B\*.dt (Windows 系)
```

- (2) 拡張子 .data のファイルをすべて連結して 1 つのマルチページファイル test.dt に変換します。
(注: この処理は、マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効。)

```
*.data -Otest.dt -M
```

- (3) (2) と同様ですが、途中でエラーが発生したら処理を中断します。

```
$break  
*.data -Otest.dt -M
```

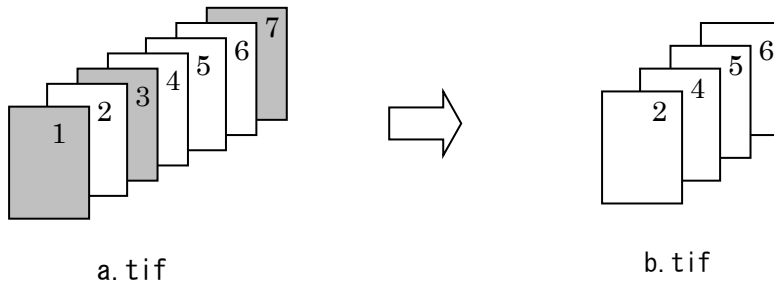
4. 実行例

例 1. マルチページファイルの 2, 4, 5, 6 ページ目を抽出して別のマルチページファイルを作成

以下のような引数を与えて実行すると、処理が行われます。

```
TIF2TIF a.tif -n2,4-6 -ob.tif
```

-n で抽出するページを指定しています。



例 2. 大量のページを含むマルチページファイルを 100 ページ毎に分割

```
> TIF2TIF a.tif -MFILE3,100 -Ob.tif
```

Copyright(c) 1992-2025 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.

RASTER(a.tif) -> RASTER(b.tif) ファイル コンバータ

ただいま、ファイル変換中です。

ラスター/ラスター変換処理 100% 終了

TIF2TIF 変換終了

